

一般質問

一人暮らしの高齢者を支える  
地域づくりについて



阿南澄男

問

団塊の世代は、令和7年にすべて75歳以上の後期高齢者となりました。この世代は戦後の高度経済成長期を支えてきましたが、その高齢化により、社会全体で高齢者増加に伴う課題が喫緊の問題となっています。特に身近な支援者のいない高齢者が増えていることは、孤独や社会的孤立、健康・生活面でのリスクを高める要因として受け止められています。また、孤独死に至るケースが年に数件発生し、市内における高齢者の孤立化や生活不安などは、今後も人口構造の変化に伴い続く予想されます。

窓口として高齢者支援に取り組んでおります。一人暮らしの高齢者への支援として、民生委員の訪問や高齢者のための協議体による支援、社会福祉協議会の支えあいサポーター事業などを進めています。また、一人暮らし高齢者見守り事業や緊急通報システム、未来ノートの活用など高齢者の相談に応じ、適切なサービスにつなげています。

今後は、一人暮らし高齢者への訪問に加え、地域の憩いの場への参加を促し、介護・福祉団体、民生委員、地域住民との連携を深め、地域での高齢者支援体制の強化を図ってまいります。

答

本市では、地域包括支援センターが高齢者の総合相談

一人暮らしの高齢者は増加傾向にあり、地域社会や行政が果たす役割は、ますます重要となっています。高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続できる環境を整えるために、市としてどのような具体的な支援や施策を講じていくのか伺う



一般質問

市立御前崎総合病院の赤字削減  
について  
NISA普及の地域間格差と  
将来の所得格差について



小田芳久

問

市立御前崎総合病院の赤字を補うため8億5千6百万円を繰り出しており、市政の大きな負担となっている。経営形態の早期見直しが必要だが、急性期病棟の一病棟化では効果が少ないと思うがいかがか

答

現在、経営改善に向けた具体的検討を進めております。急性期病棟の一病棟化は、経営改善への最初の一步であり、今後は市立病院の規模や機能の適正化を重要課題として位置付け、病院機能の再編を迅速に行い、経費削減につなげていく予定です。今後、中東遠地区の近隣医療機関との広域的な連携体制の構築については議論を進め、民間への業務委託は委託候補先の医療法人があるか継続調査します。

問

市としては、まず市立病院を安定的に存続させ、持続可能な地域医療を確保することが最優先であるとも考えております。

問

看護師確保及び人件費削減のために厚生労働省の補助金を活用して、看護記録の入力など間接的業務を削減する必要があると思うがいかがか

答

医師・看護師の負担軽減は必要であるため、補助金を活用し、医療DXの導入を進めてまいります。

問

現在、国が進める「資産所得倍増プラン」により、NISAが進められており、若年層からの資産形成の重要性が高まっている。そのため「金融教育に力を入れている」という発信は若者の地元定着や生活基盤の安定につながると思うがいかがか

答

若年層への金融教育機会提供は、経済的に自立した成長を促すことにもつながるため、他市の事例を参考に検討をしてまいります。

答

白羽クリニックは地域医療の維持・充実に必要な施設

病院の規模や機能の適正化を重要課題とするとあったが、市民医療をどこまで守り、白羽クリニックは存続できるのか